

▼ ▲ 会議のトピックス(V) ▼ ▲

写真で見る ND2016 開催地の風景

写真提供：JAEA 中尾氏、中山氏



ND2016 会議のメイン会場の風景。 国際会議の熱気が感じられます。
(学生の諸君、早くこの舞台へおいで。)



会議開催場所である Sint-Janshospitaal の内庭。Sint-Janshospitaal は、ヨーロッパで保存されている最も古い病院施設の一つのことです。



Sint-Janshospitaal の内庭。ここで集合写真が撮影されました。中央に見えるのは、聖母教会が抱える 122m 高さの尖塔。



市内に張り巡らされた運河沿いの建物は、中世の面影を水面に映しています。



古都ブルージュ、名称の由来は「橋」。正面に見えるのは、聖母教会。



運河巡りで分かる、ブルージュは「橋の街」 某氏、会議の疲れを癒しに市街を散策。



市庁舎 1420 年竣工で、ブルージュでもっとも古いといわれる建物。
おおっ古都ブルージュよ、そなたを『屋根のない美術館』と称えよう。



都市防備の目的で造られた城門。門に付属して円筒形の塔が建設されており、ここから侵入者に対して弓による攻撃を行なったのであろう。



運河を渡る観光船から見た風景。「北のヴェネツィア」との異称もうなずけます。運河岸の欄干にたたずむのは恋人たちであろうか。チッ（←性格悪し。）



鐘楼と運河の風景。



赤煉瓦の家屋の並ぶ美しい町並み。



石畳の道路を行く観光馬車。 ブルージュ帯は、歴史地区に指定されており、古い街並みの風景に馬車は良く似合う。(後続車は、迷惑そう?)



聖血寺院（Basilica of the Holy Blood）—バシリカ式教会堂。第1回十字軍の際にフランドル伯が持ち帰った聖血(キリストの血)にまつわる聖遺物にちなんでいるという。



バシリカ式教会堂の祭壇(左)とチャペル(右)。我々は神の存在を証明できるか、否、我々は神の存在を感じることにしかできない。(おい、どうした？腹が減ったのか？)



マルクト広場と鐘楼。鐘楼の高さは 83m で、昇ればブルージュ全域が見渡せる。
 （松田聖子が歌った「ブルージュの鐘」の舞台はここか！？ 歳が分かってしまう。）



ND2016 参加者の皆様、お帰りなさい。
 次回 2019 年、北京での核データ国際会議に向けて
 研究成果を出して参りましょう。 以后見